

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	57.6	71.0	69.4
	農業や水産業	67.8	74.0	69.0
	工業生産	78.0	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	82.2	82.8	88.7
	日本の歴史	69.8	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.2	71.9	67.2
	観察・資料活用の技能	70.8	76.3	70.7
	社会的事象についての知識・理解	68.3	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市よりも下回っている。 ●日本の周辺の海洋名、日本の周囲の国の国旗、国土の主な山脈、川、平野の名称に関する設問の正答率は、それぞれ64.4%、61.0%、49.2%で、市よりも低い。特に、地形に関する設問では、正答率が5割を切っている。	・世界の主な大陸や海洋、主な国の名称や位置、我が国の位置や領土、国土の様子や特色について、教科書だけでなく、資料集や地図帳、地球儀、白地図、統計などの各種資料を積極的に活用したり、重要なところを一つ一つ確認したりして、確実に覚えられるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市よりも下回っている。 ●47都道府県の名前と位置の理解のもとに日本の主な食料生産物の分布を読み取る設問の正答率は84.7%で、市よりもやや低い。 ●日本が食料確保においてかかえる問題について資料を読み取って考える設問の正答率は37.3%と低く、市よりも下回っている。	・47都道府県の位置と名称については、白地図や地図帳を用いて繰り返し行い、卒業までに確実な定着を図る。 ・資料の読み取りに課題が見られるので、マニュアルカードを用意したり、読み取り方の手順を示したりして、正確に読み取れるようにする。
工業生産	平均正答率は、市とほぼ同等である。 ○工業生産に従事している人々による環境保全の取り組みに関する設問の正答率は96.6%で、市よりも高い。 ●自動車がどの工業の製品になるかという設問の正答率は59.3%で、市よりも低い。機械工業ではなく、金属や化学と答えた児童が見られた。	・工業の種類について、金属・機械・化学・食料品の4つの分類と主な製品について、教科書や資料集などで調べること、自分の身近にあるものがどの分類に当たるのか関心を高めるような活動を取り入れていく。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市とほぼ同等である。 ○テレビやラジオ、新聞などの情報手段についての設問の正答率は98.3%で、市よりも高い。 ●医療現場での情報ネットワークの活用に関する設問では66.1%で、市よりも低い。資料の内容の確認が不足している児童が見られる。	・情報産業が様々な情報を提供し、国民の多くがそれらを利用している現状や、情報ネットワークの働きが公共サービスの向上のために利用されていることなどを手掛かりにして、自分の考えを表現する活動を取り入れていく。
日本の歴史	平均正答率は、市を下回っている。 ●大和朝廷による国土の統一についての設問の正答率は88.1%で、市よりも低い。 ○源頼朝が鎌倉に幕府を開いた背景について、複数の資料をもとに考え、記述する設問の正答率は72.9%で、市よりも上回っている。 ●古墳を作った王や豪族が大きな力をもっていたことを資料から読み取り、記述する設問の正答率は66.1%で、市よりも低い。 ●木戸孝允、西郷隆盛、勝海舟の働きに関する設問の正答率は66.1%で、市よりも低い。	・資料をもとに歴史的背景や関係などを読み取る力を付けるために、普段の授業から資料をもとに考える時間を十分に取っていく。 ・授業の中に、まとめや振り返りを書く活動を継続的に取り入れて、文章で表現する力を高めていく。 ・歴史に興味をもっている児童が多く、意欲的に学習に取り組んでいるので、校外学習や修学旅行等で現地調査を取り入れて、歴史的背景やその時代の文化を具体的に理解できるようにする。

